

令和 7 年度 麻生区市民提案型協働事業結果報告書

○ふりーたいむ コネアグ（NPO法人 c o n n e c t）	・・・ P 1
○麻生区大学連携 “かわさきワインプロジェクト” （特定非営利活動法人岡上アグリ・リゾート）	・・・ P 1 0
○みんなで作る更年期の未来（一般社団法人 Miraiall かわさき）	・・・ P 1 4
○新百合ヶ丘マインクラフト化計画 （一般社団法人サステナブルマップ）	・・・ P 2 0

2026 年 3 月 2 日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	NPO 法人 connect
-----	----------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース	
事業名	ふりーたいむ コネアグ	
実施時期	2025 年 6 月 8 日 ～ 2026 年 3 月 2 日	
事業費	予算額	307,300 円
	決算額	215,500 円
実施結果	第1回 6/8（参加者8名・施設職員2名） 梅の実拾い・たけのこ掘り・収穫体験（里芋、玉ねぎ、インゲンなど）・ご飯作り・花束作り・線香火付体験・草むしり、など 第2回 7/6（参加者9名・施設職員2名） 収穫体験（ジャガイモ、ミニトマト、ブルーベリーなど）・ご飯作り・線香の火付体験・そうめん茹で・虫観察、など 第3回 10/8（参加者1名・保護者1名） 栗拾い・収穫体験（キウイ、落花生、オクラなど）・栗と落花生の出荷準備・ご飯作り・焚き火など 第4回 11/2（参加者2名・保護者3名） 収穫体験（ゆず、柿、シシトウなど）・ご飯作り・焚き火・マシュマロ焼きなど 第5回 12/7（参加者7名・保護者3名・施設職員2名） 収穫体験（大根、ターサイ、かぶなど）・ご飯作り・焚き火・敷地内で取れる素材を使った思い思いのリース作り	

第6回 1/25 (参加者3名・保護者4名)

収穫体験(大根、チンゲンサイ、サニーレタスなど)・ご飯作り・どんど焼き風焚き火・竹細工作り・堆肥用落ち葉拾い

【「コネアグならではの」な体験例】

焚き火試行錯誤着火体験

→焚き火は敷地内で「燃えそうなもの」を自分たちで探し火にくべてみた。勢いよく燃えるもの、水蒸気が出るもの、なかなか燃えないものなど性質による違いのほかに、くべる位置などでも燃えやすさが違うため、子ども達なりに試行錯誤しチャレンジしていました。

収穫→調理→食べる

→食べたい食材を決め、「美味しそうだ」と思ったものを収穫し、洗って切って煮るという一連の作業を経て、自分たちで味噌汁に。おにぎりは炊き立てご飯を、好きな味付けをし自分で握る。また自分たちで準備したものを他の参加者に振る舞う。「食べる」部分だけが切り取られがちな現代の食生活において、その前段階に触れ、さらには食を通して周りの人と関わる機会となりました。

材料から探すリース作り

→自分で切り出したキウイのツタをベースに、散策しながら採取した木の実や葉っぱをあしらひ自然素材のリースを作成。普段は風景の一部でしかない草木や雑草に意識を向け、バーチャルではなく実際に体を使ってあれこれ採取し、結果サイズも雰囲気も個性的な思い思いの「私だけの」リースが仕上がりました。

大人にとって「日常」な、子どもにとっての「非日常」体験

マッチを擦り、火を点ける、蚊取り線香に火を点ける、バケツに張った氷を見て触り、割れるまで投げて遊ぶ…大人にとっては何て事ない事柄に、子ども達は夢中になっていました。

【子ども達の変化】

①参加者の心境と表情の変化

リピート参加してくれる子ばかりで、どの子も初回は大人からの指示があった時に指示内容だけこなす感じでした。

コネアグの「失敗はチャンス」をモットーに、子ども達は徐々に「大丈夫、やってみよう」と、次第に体の力を抜き楽しく取り組む姿がありました。またこちらの提案にも自分の意思でYES/NOを表現してくれるようになり、回数を重ねていく毎に、子ども達も提案してくれるなど、自主性を感じられるまでになりました。

②子ども同士のコミュニケーションに

普段子ども同士で接する機会が少なかった為、とくに保護者から喜ばれました。競う場面や失敗してしまった時、「普段だったら荒れるのにコネアグでは耐えられた」と、保護者は子どもの成長に驚かれる事もありました。

③普段できなくても、環境によってできる事もあるという発見と自信

事前の聞き取りで保護者から「不安が強く、積極性に欠ける」と回答があった参加者。スタッフが「〇〇してくれる人～!？」という声掛けに、子どもが積極的に挙手する場面があり、保護者が感動していました。「積極的にやってみる」という挑戦の場を大人が整えたらその子の意識も変わるのかも、と感じた瞬間でした。

【保護者の変化】

①保護者同士で子どもの事や様々な情報、連絡先を交換されていました。同じ気持ちを分かち合い支え、拠り所になるコミュニティが育めている様子がありました。

②迷惑をかけないようにという気持ちから、最初は子どもから目を離せなかった保護者も、回数を重ねるごとに「頼っていいんだ」とリラックスして臨んでくれています。

【みんなで育み、育まれる場に】

家族と他人の境界線が強く、親子という狭い関係性の中だけで子育てが行われがちな現代。コネアグの自然でのびのびした空間や、細かいルールが一切無い状況において、他者の子どもに寄り添う別の保護者の姿などが多く見受けられました。家庭や年齢といった敷居なく、境界線が曖昧な空間でお互い育み合う、かけがえのない時間を共有できたと感じています。

またあえて下準備をし過ぎずスタッフ側も試行錯誤や失敗を見せることで、「できて当たり前」といった失敗に対する先入観を拭くよう意識していましたが、それが功を奏したのか、子ども達も失敗や暗黙のルールに怯えることなく子ども達も保護者ものびのびと楽しんでくれたように思います。

当初、農作業をメインに考えていましたが、いざ開催すると開催場所として貸していただいた中山さんの敷地は、畑以外にも多大な魅力に溢れ、子ども達の興味が多岐に渡り、農業に限らず幅広い「自然体験」を全員で堪能することができました。

子ども達は、朝から気持ち良く活動するため、帰宅後もご飯をしっかりと食べその晩はぐっすり眠り、健康的なリズムで1日を過ごせたようです。

事業総括 (自己評価)	当初、農作業をメインに考えていましたが、いざ開催すると開催場所として貸していただいた中山さんの敷地は、畑以外にも多大な魅力に溢れ、子ども達の興味が多岐に渡り、農業に限らず幅広い「自然体験」を全員で堪能することができました。 子ども達は、朝から気持ち良く活動するため、帰宅後もご飯をしっかり食べその晩はぐっすり眠り、健康的なリズムで1日を過ごせたようです。 またコネアグで自信をつけたお子さんが日常でも新たな事に挑戦したり、コネアグで挑戦した料理を、家で自分の当番になったりと、嬉しい効果が見受けられました。 そして今回、「フラワーショップまきば」より、花束に使うお花やラッピング材を、「焚き火カフェ山」より、焚き火に使う薪をご厚意で提供いただきました。 どちらも“子ども達のためになるなら”と温かい思いからご支援を下さり、さまざまな大人が多様な形で関わる、地域ぐるみの子育ての場にもなれたのではと思っています。 【参加者の感想】共有の許可をいただいたので、そのまま掲載します。 ◎Aさん（小学3年生の不登校男児のお母様） 不登校の息子と2人きりで過ごす時間が長く、親子ともどうしても心が内向きになりやすい中、このイベントを知り、参加しました。 現地につくと、本当に自然豊かで、ゆったりとした時間が流れていて、初めて来たというのになぜだかほっとして常に張り詰めていた心が少しほぐれていく感じがしました。スタッフの方々は、笑顔が素敵でとても明るくて、程よい距離感で声をかけてくださります。 子供への声かけも上手なので、息子もすぐに打ち解けました。畑で収穫体験をしたり、その季節ならではの景色を見たり体験をさせてもらったり、1日があっという間に過ぎていきます。なにより、収穫したての新鮮な野菜のランチが最高です。息子は外遊びが大好きなので、焚き火などやりたいことをやらせてもらえて、本当に伸び伸びと楽しそうにしている、そういう姿を見られるのが、親としては何より嬉しいです。 学校には行けないけれど、人とのつながりを欲しているところがあるので、このコネアグは、程よい距離感で1日一緒に遊んで過ごせて、ゆるく繋がりをもつ感じが息子にとっては心地良いひとつの居場所になっているように感じます。3回参加させていただきましたが、毎回息子は「次はいつ畑に行けるの？」ととても楽しみにしていました。 こういった場所があるのはとてもありがたいですし、ぜひ今後も継続して開催していただけたら嬉しいです。
----------------	---

●Bさん（小学3年生の不登校女兒のお母様）

10月に初めて参加してから、B子は毎回コネアグの日を本当に楽しみにしていて、指折り数えて当日を待ち望んでいました。B子そのまを受け入れていただける雰囲気、B子は心地良く感じていたのだと思います。

野菜やフルーツの収穫、焚き火、ツリーハウス、お昼ご飯作り、竹の花瓶やコップ作りなど、初めてのことが苦手なB子ですが、皆さんの温かい声かけやお褒めの言葉から勇気を貰い、色んなことを楽しんでチャレンジすることが出来ました。

スタッフの方はもちろん、参加者のお子さんたちとの交流も楽しんでいました。

帰宅した時のB子の表情や話から、この経験がB子の自信に繋がっていると感じています。

また毎回メールでB子の様子や成長をフィードバックしていただき、私自身地域の皆さんと子育てをしているように感じられ、ワンオペで育児をしていた不登校初期の頃に比べて気持ちがとても楽になった様に思います。

半年間本当にありがとうございました。ぜひ来年もこの活動を続けていただけたらと思っています。開催が決まりましたら、必ずご連絡下さい！

B子は今から毎回欠かさず参加する気でいます。（笑）

反省と改善

広報に苦戦

今回の参加者はスクールソーシャルワーカーの方からのご紹介の親子数組と、白山愛児園の子ども達でした。

最初はターゲットを絞り、子ども文化センターと小中学校の校長先生へのチラシ配布のみでしたが問い合わせもなかったため、その後範囲を広げて地域の共有スペースやカフェへのチラシ掲示、そしてその後さらにMYTOWNへの掲載や地域のインフルエンサーにもチラシを投稿していただきましたが、問い合わせが数件あっただけで申込みには至りませんでした。

改善方法：

保護者から子どもへのアプローチが大半となりそうなので、今後は子どもを持つ親が足を運びそうな場所や、会場付近の商業施設などにもチラシの掲示をお願いしようと思います。ただ受け入れられる人数にも限りがあるため、少しずつ段階を踏んで様子見しようとも思っています。

参加費について

第1～3回までは参加費を設定していませんでしたが、近年のお米をはじめとする食材価格の高騰に加え、子どもたちの食事量が不足しないよう「食べ放題」の形式で

	十分な量を準備したことから、事業費が予算を超過する懸念が生じました。 また、開催回数を重ねる中で、本事業を継続的に展開していくためには、保護者の方から一定の参加費をご負担いただくことが必要であると認識するようになりました。加えて、保護者の方々からも「参加費を支払いたい」と前向きなお声をいただいたことを受け、第４回より参加費を頂戴することとしました。 今後に関して 今後のコネアグも整え過ぎず、「大人も子どもも、一緒に試行錯誤をしながら作り上げていく」場にしていければと考えています。全ての過程で得られる経験を大切に、失敗もトラブルも成長のチャンスと楽しんで挑戦してもらえる場となるよう作っていかれたらと思っています。 また大人の「こうあってほしい、これを体験してほしい」と願う前に、まずは子ども達が持つ「こうしたい」に寄り添い、子どもの主体性を大切にする事業として努めて参ります。そしてゆくゆくは麻生区内に限らず、川崎市内の子どもに対象範囲を広げ活動したいと考えております。 今年度敷地をお貸しいただいた NORACo. の中山さんの運営変更もあり、来年度コネアグは「ぷらいどらんど」（川崎市麻生区早野）で開催させていただく運びとなり、現在準備を進めております。
--	--

２ 決算内訳

（１）収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	190,000	
参加者参加費	3,000	大人の食材分として 300×10 人分（第４回以降保護者（施設職員を除く）から集金）
賛同者負担金等	2,500	一般の１名様より
団体負担金	20,000	
合 計	215,500	

（２）支出

項目	決算額 (円)	内訳
----	------------	----

謝礼金等	115,500	農家への謝礼、ボランティアへの謝礼
消耗品費	24,540	中古炊飯器、中古ジャグ、食材、調味料等
印刷製本費	3,620	チラシ、資料等
使用料・賃借料	36,000	車両使用料
保険料	3,360	560 円×6 回
その他諸経費	32,480	HP、SNS 年間管理費等
合 計	215,500	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(N P O 法人 connect)
事業名	(ふりーたいむ コネアグ)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ② ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	お子さんへの貢献は達成度が高く、農家さんへの貢献度は不十分でした。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	① 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	お子さんからは「コネアグを機に新たなことにチャレンジした」や「親子で開催を楽しみにしています」などのお声をいただいています
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された ② 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	節約に努め(印刷・消耗品など)、物品のご寄付もいただけ、過不足ない経費で充実した内容で行えたと感じています
	実施過程で問題は発生しましたか	① 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	問題は発生しなかったが、想定通りにいかないこと(花が咲かない、当初予定より作業が多いなど)はありました。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	① 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	麻生区との協働ということ、初参加の親御さんからの信頼感に繋がったと思います。また SSW さんのご紹介はとても大きかったです。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	1. 十分に行った ② まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	認識の相違があるのではと感じ、適宜協議が必要と思いました。しかし高木さんがこまめに足を運んでくださり、状況や雰囲気を確認され、話す事も出来たため、認識のすり合わせに繋がったのではと思います。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	① 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	対等であると思います。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	① 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	明確かつ適切だったと思います。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	① 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	広く広報活動をして、都度 SNS での報告もしていたため、十分確保できたのではと感じています。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

今後の課題	広報や集客面で、参加者がなかなか増えないのは今後の課題であると感じています。また農作業のマンパワーとして、もしくはまた違った角度でももう少し貢献ができるといいなと感じています。
-------	--

令和8年 3月 2日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート
-----	----------------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース		
事業名	麻生区大学連携 “かわさきワインプロジェクト”		
実施時期	令和7年	5月	10日 ～ 令和8年 3月 2日
事業費	予算額	603,100 円	
	決算額	609,277 円	
実施結果	(具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など)		

① 【大学共同事業】

○ぶどう栽培からワイン造りを学ぶ

- ・ 明治大学ワインプロジェクトの講義(5/24,6/21)
- ・ 和光大学と相模女子大学でぶどうの傘掛けを実施(6/27)
- ・ 収穫体験を和光・明治・相模女子大学の3大学共同で実施(8/16,8/30)

○ワイナリーづくりに関わり建築を学ぶ

- ・ 醸造所の壁制作で左官作業を共同で実施(8/16)
- ・ 明治大学理工学部を中心に岡上の靱殻を使い施工した

○ワインラベルでデザインを学ぶ

- ・ 和光大学と明治大学の連携（今年度より和光大学と明治大学は協定を締結し、和光大学地域デザインのデザイン講義の授業と明治大学農学部アグリサイエンス研究室およびワイン講座について相互的に授業交流をすることとなった）（参加学生 11 名参加）
- ・ 和光大学表現学部の木村教授のデザイン講義を明治大学生田キャンパスで実施、和光大学、明治大学、相模女子大学の学生が共同で授業を学んだ。（8/9）（30 名の学生が参加）

○ワインを通じて福祉を学ぶ（参加学生 20 名）

- ・ 栃木県にあるココファームワイナリーは福祉のためにつくられ、農福連携のパイオニア的な場所となっている。川崎市健康福祉局から委託を受けている「企業応援センターかわさき」の職員による指導のもと見学ツアーを実施（10/1）

② 【ワイナリー完成披露と岡上ヌーボーイベント開催】

- ・ 今年度は、岡上地域で和光大学の学生、黒川地域で明治大学の学生が、それぞれぶどうの栽培からワイン醸造・ラベルデザインまで取り組み岡上・黒川それぞれの地域のヌーボーを完成させ、相模女子大学がぶどうの栽培時に廃棄されてしまう枝等を使ったワークショップ（クリスマスリース作り）を実施し 300 人以上の市民が来場した。（11/3）

③ 【第2回かわさきワインサミット@岡上ワインヴィレッジ】

- ・ 今年度の総括として開催。北海道・十勝から5つのワイナリーと宮崎県の1つのワイナリーが講師として登壇。川崎市が地方の生産地を繋げるハブとしての役割や都市農業、川崎市で活動する大学生の取り組みなどを発表した。（2/22）（第1部 30 名、第2部 25 名）

事業総括 (自己評価)	(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など) 今年度は和光大学地域デザインと明治大学アグリサイエンス研究室が協定書を結び授業を共有することが可能となったのは大きかった。和光大学のデザインを明治大学の学生が受講し明治大学農学部授業を和光大学の学生が受講した。また、昨年に続き明治大学理工学部の学生が中心となりワイナリーの建築に携わった。そして今年度から新たに相模女子大学も加わり合同で様々な取り組みを実施できたことは地域活性化につながったと考えている。1年の集大成の「かわさきワインサミット」は大成功となったが満席となってしまい参加できなかった方がたくさん出てしまったので次年度以降はよりたくさんの市民の方々が参加できるような仕組みとしたいと考えている。
----------------	--

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	470,000	
参加費	10,000	農福連携を学ぶ学生ワイナリーツアー参加費 (500 円/人) × 20 名
団体負担金	129,277	自社負担
合 計	609,277	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	240,000	
印刷製本費	353,100	チラシ、リーフレット、広報紙掲載
消耗品費	16,177	インク、用紙、USB、木製フォーク、紙皿
合 計	609,277	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート)
事業名	(麻生区大学連携 “かわさきワインプロジェクト”)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた 2. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	田園調布学園大学との連携を目指したが、連携には至らなかった。その他は達成できた。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	1. 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	特に岡上ヌーボーは大学生と市民が関わることができた。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	ほぼ予定予算で運営ができた。
	実施過程で問題は発生しましたか	1. 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	特に大きな問題は発生しなかった。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	1. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	協働することで信頼がより増した。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	1. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	イベント運営で事前の協議不足もあったが実施できた。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	1. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	対等であった。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	1. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	適切であった。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	1. 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	HP や SNS を活用し情報はなるべく発信した。
今後の課題	かわさきワインサミットを1年間の集大成としての発表の場として考えていたが、会場のスペース上予約制で行った。しかしすぐに予約が埋まってしまうキャンセル待ちが相次いでしまった。次年度以降はたくさんの方々が参加できるような仕組みを検討したいと考えている。		

令和8年3月2日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	Miraiall かわさき
-----	---------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース	
事業名	みんなで作る更年期の未来	
実施時期	令和7年5月29日 ～ 令和8年3月2日	
事業費	予算額	720,000 円
	決算額	774,239 円
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など） 8月30日 - 更年期プロジェクトキックオフミーティング「Menopause café in ASAO」 講義：女性ホルモンの変化と 上手に付き合っていくためには 講師：麻生総合病院 菅裕佳子先生 座談会：自分に合うケアを 見つけるには？（医師・カウンセラー等） 場所：CAFÉ & SPACE L.D.K. 参加人数：16人 10月26日 - 地域でケアするには？ 「第2回 Menopause café in ASAO」 対象：全世代（ケアする立場の方を中心に、すくらむ21、看護師協会等） 場所：21ホール会議室 参加人数：12人 （11月29日 みらい発見フェス - 更年期からの女性の健康と働き方トークセッション 場所：21ホール）	

	1月30日 Mismo 更年期特集 発行 2月7日 サステナブルマルシェにて女性の健康相談ブース出展 相談者：30人
事業総括 (自己評価)	(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など) 1. 当初の目標に対する達成度（達成状況） 本事業（メノポーズカフェ／トークセッション）を通じて、川崎市内における女性の健康相談ニーズの強さと、特に更年期に関する情報・相談機会が不足している現状を明確に把握できた。 また、麻生総合病院の菅先生から、更年期ケアにおいては医療が土台をつくる一方、日々の体調管理はセルフメディケーションと自律神経を整える視点が重要であることを学び、参加者へ具体的な方向性を提示することができた。 2回のメノポーズカフェの結果を踏まえ、就労世代における更年期への理解促進を図るため、「Mismo ウェルネス」と連携して特集記事を作成し、麻生区を基盤とした地域情報誌ネットワークを活用して周知を行い、サステナブルマルシェの健康相談ブースでも配布した。ブースは田園調布学園大学の学生協力による「小児がん支援 レモネードスタンド」の隣に設置し、更年期への関心が薄い層にも立ち寄ってもらえるように工夫した。 さらに、事業に関連した取組として、「みらい発見フェス」にて、更年期からの女性の健康と働き方トークセッションを開催した。健康だけでなく「お金（資産形成）」を組み合わせた情報提供を実施し、人生100年時代に必要な知識を一体で届けるという点でも、当初の狙いに沿った内容となった。 2. 事業を実施したことによって生じた効果（成果・波及） ● 相談窓口の不足と、市民の潜在ニーズが可視化された。 女性の健康相談、とりわけ更年期に関して「そもそも相談先が分からない」「困っているが我慢している」層が多いことが分かった。 ● 更年期知識の不足が明確になった。 更年期について「なんとなくしか知らない」女性が半数以上にのぼり、体調不良（だるさ等）があっても、どのようにケアすれば

よいか分からない実態が確認された。また、男性の反応は限定的であったものの、まずは身近なパートナーや職場の管理職等に対して、女性の健康課題を正しく認識するよう働きかけていくことが重要であることが分かった。

- **医療・薬剤師・地域の支援資源をつなぐ必要性が共有された。**

すくらむ 21 等、川崎市には既存の相談サービスが点在しているが、個別に存在しているだけでは届きにくい。

今回のように「集まって相談し合える場」を起点に、必要時に医療につながり、さらに薬剤師へ相談して漢方の助言を得るなど、切れ目のない支援の動線が必要であるという認識が深まった。

- **女性の健康課題を“社会課題”として捉える意義が強化された。**

労働人口減少の中で女性人材が貴重であり、月経・妊娠出産・PMS・更年期といったライフステージの変化を、子どもの頃から知り備える重要性が再確認された。地域の健康づくりが、働き続けられる環境づくりにも直結する。

- **健康とお金をセットで伝える新しい価値が生まれた。**

11 月 29 日のトークセッションで更年期の話に加え、ファイナンシャルプランナーによるお金の話を実施。

「人生 100 年時代、健康寿命が延びるなら“お金の寿命”も延ばさなければならない」というメッセージは強く響き、従来の“貯金中心”の価値観から、今後は運用も含めて備える必要があると理解が進んだ。

その結果、女性が将来不安を抱え込みにくい、安心して暮らし働ける川崎のまちづくりに資する方向性が見えた。

3. 参加者の反応（印象・納得感）

参加者からは、「相談窓口が少ないことを初めて実感した」「体のだるさ等があっても、どうケアすればよいか分からなかったが道筋が見えた」といった声が得られた。

特に、菅先生の話（自律神経を整える重要性、セルフメディケーションの必要性）は「すぐに生活で取り入れられる」と受け止められ、健康行動への前向きさにつながった。

また、お金の話は納得感が非常に高く、「健康とお金を一緒に学べたのが良かった」「不安が整理された」といった反応が見られ、テーマ設定の有効性が確認できた。

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	470,000	
団体負担金	304,239	
合 計	774,239	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金	216,000	菅先生 2 回 薬剤師 4 名
会場費	22,110	カフェ LDK 2 1 ホール
印刷製本費	121,000	チラシ作成 (2 イベント)・印刷費・SNS バナー費
消耗品費	68,239	文具費等
Mismo 委 託費 掲載料	321,890	雑誌掲載料
サステナブル マルシェ出展 費	25,000	ブース代
合 計	774,239	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(Miraiall かわさき)
事業名	(みんなで作る更年期の未来)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ② ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	医者・薬剤師・看護協会・地域紙など様々なステークホルダーと協業できた。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	① 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	アンケート結果から満足度を確認できた。
	事業の経費は適正でしたか	① 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	適正でした。
	実施過程で問題は発生しましたか	① 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	何もなくスムーズに進められました。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	① 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	かなりの効果でした。医者と市民と薬剤師とすくらむ21さん看護協会などと女性の健康について話せたのは提案型だからこそだと思いました。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	① 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	はい。夜のオンラインミーティングなど時間を工夫しました。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	① 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	対等な内容でした。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	① 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	途中で費用変更など適宜アドバイスをいただきました。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	① 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	はい。様々なチャンネルで発信しました。
今後の課題	2年に渡り市民に健康を考えるテーマでやらせていただきました。 レモネードスタンドは田園調布学園大学の藤原ゼミが学校として自走していただけたとの事、麻生区市民提案型協働事業で出会った薬剤師さん達も自走で女性の更年期に取り組んでいただけた事となり、Miraiall かわさきとしての麻生区市民提案型協働事業は終わりますが、今回の活動が継続して		

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

	いけるようにサポートしたいと思いますが、麻生区にて発信のチャンスなどのお声がけが減ってしまうのではないか？と思っております。 引き続き行政の方に情報をいただければと思っております。
--	--

2026年 3月 2日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	一般社団法人サステナブルマップ
-----	-----------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース				
事業名	新百合ヶ丘マインクラフト化計画				
実施時期	2025 年 5 月 14 日 ～ 2026 年 3 月 2 日				
事業費	予算額	1,471,726 円			
	決算額	1,524,319 円			
実施結果	(具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など)				
	日付		時間	会場	実施内容
	7/5 (土)		15:00-17:00	オンライン	セットアップ会&交流会
	7/12 (土)		9:00-12:00	ヨネッティ王禅寺	テーマ、チーム分け、まちづくり方針の説明
	7/21 (月)		13:00-16:00	やまゆり	基本操作、建物の作り方How to、データの取り扱いについてのレク
	7/27 (日)		10:00-12:00	オンライン	テスト会
	8/2 (土)		15:00-17:00	オンライン	作業会
	8/7 (木)		10:00-12:00	アジア航測調布飛行場	イベント
	8/19(火)		10:00-12:00	恩廻調整池ツアー	イベント
	8/22 (金)		15:00-19:00(予定)	オンライン	作業会
	9/23 (月)		調整 (終日可能)	麻生区役所	作業会
	10/4 (土)		15:00-17:00	オンライン	作業会
	10/18 (土)		15:00-17:00	オンライン	作業会
	11/8 (土)		9:00-12:00	ヨネッティ王禅寺	作業会
	11/29 (土)		終日 (調整中)	新百合21ホール	アートアンドデジタルフェス
	12/7 (日)		15:00-17:00	オンライン	作業会
	12/13 (土)		9:00-12:00	麻生市民館	作業会&イベント準備
	1/10 (土)		15:00-17:00	オンライン	作業会
	1/17 (土)		9:00～16:00	ヨネッティ王禅寺	作業会&イベント準備
	2/7 (土)		終日	新百合21ホール	サステナブルマルシェ
開催回数 予定 7 回→18 回					
(みらい発見フェス、サステナブルマルシェ追加)					
参加人数 31 名					
成果物：4 つのテーマ (芸術・コミュニティ、自然環境、防災、社会インフラ) に参加人数を振り分けて実施。イベントの場で発表と一般参加者にプレーしていただくことが出来た。					

事業総括 (自己評価)	(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など) 予定の 2.5 倍以上の開催数となり、参加メンバーの満足度は非常に高い。またアジア航測株式会社との協働が生まれ、トウェンティワンビルを再現したデータを作成していただき、広く市民に「遊びながら学ぶ」時間を提供できた。また、ゲームの世界だけではなく、飛行場の見学や、恩廻公園調整池のトンネルツアーなど、非日常体験の提供もできたことで、来年度も参加したい声が多く届いている。 また当初予定にはなかったが 11 月に参加したみらい発見フェスと、2 月にサステナブルマルシェを主催できたことにより、子どもたちの自己効力感が高まった。 新百合ヶ丘駅前周辺としてデータ作成を行ったが、それでも広範であったため、来年度は北口に絞り、本年度作成したデータを一部引き継ぎながら進めていく。またデジタルから離れる時間を提供するプログラムを実施予定であり、地域の子どもたちだけでなく、保護者の参加も促すことで、さらなる地域醸成を行っていく。
----------------	---

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	470,000 円	
参加者受講料	900,000 円	プログラム参加費用
団体負担金	154,319 円	内部留保より捻出
合 計	1,524,319 円	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金	114,000 円	講師謝礼
交通費	3,660 円	メンバー交通費
消耗品費	59,289 円	事務用品費
謝礼金	143,338 円	市民団体関係者等
印刷製本費	72,000 円	マインクラフト教材費
印刷製本費	282,000 円	データ基礎構築/コーディング費
印刷製本費	25,500 円	募集チラシ印刷代
印刷製本費	44,000 円	募集チラシデザイン料
広告宣伝費	109,500 円	タウンニュース、マイタウン ロコっち新百合ヶ丘
アカウント 登録費	69,372 円	38 アカウント (運営含む)
通信費	117,404 円	ZOOM,StarLink
通信運搬費	9,370 円	配送料
使用料・ 賃貸料	23,266 円	5 回
ホームページ 構築費	220,000 円	
保険料	11,620 円	ボランティア保険
事務局管理費	220,000 円	2025/5～2026/2
合 計	1,524,319 円	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(一般社団法人サステナブルマップ)
事業名	(新百合ヶ丘マインクラフト化計画)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた 2. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	活動初年度として取り組んだテーマをもとにワールドを作成できた。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	1. 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	参加者の満足度は非常に高く、次年度も参加する声が多数ある。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	開催数が2.5倍強となったため、予算超過してしまった。
	実施過程で問題は発生しましたか	1. 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	特段の事故やけがは発生していないが、オンラインでプレーする際にいさかいが起きた。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	1. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	イベント実施においての協力があつたことから、子どもたちにとっても良い経験となった。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	1. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	1. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	1. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	1. 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	
今後の課題	開催数増加によって予算を上回ったことにより、法人としての支出が増大した。 金銭面含め、本事業だけでなく、様々な形で区役所との連携が図れることを望む。 また、協賛企業を増やすことは喫緊の事項であると感じる。		